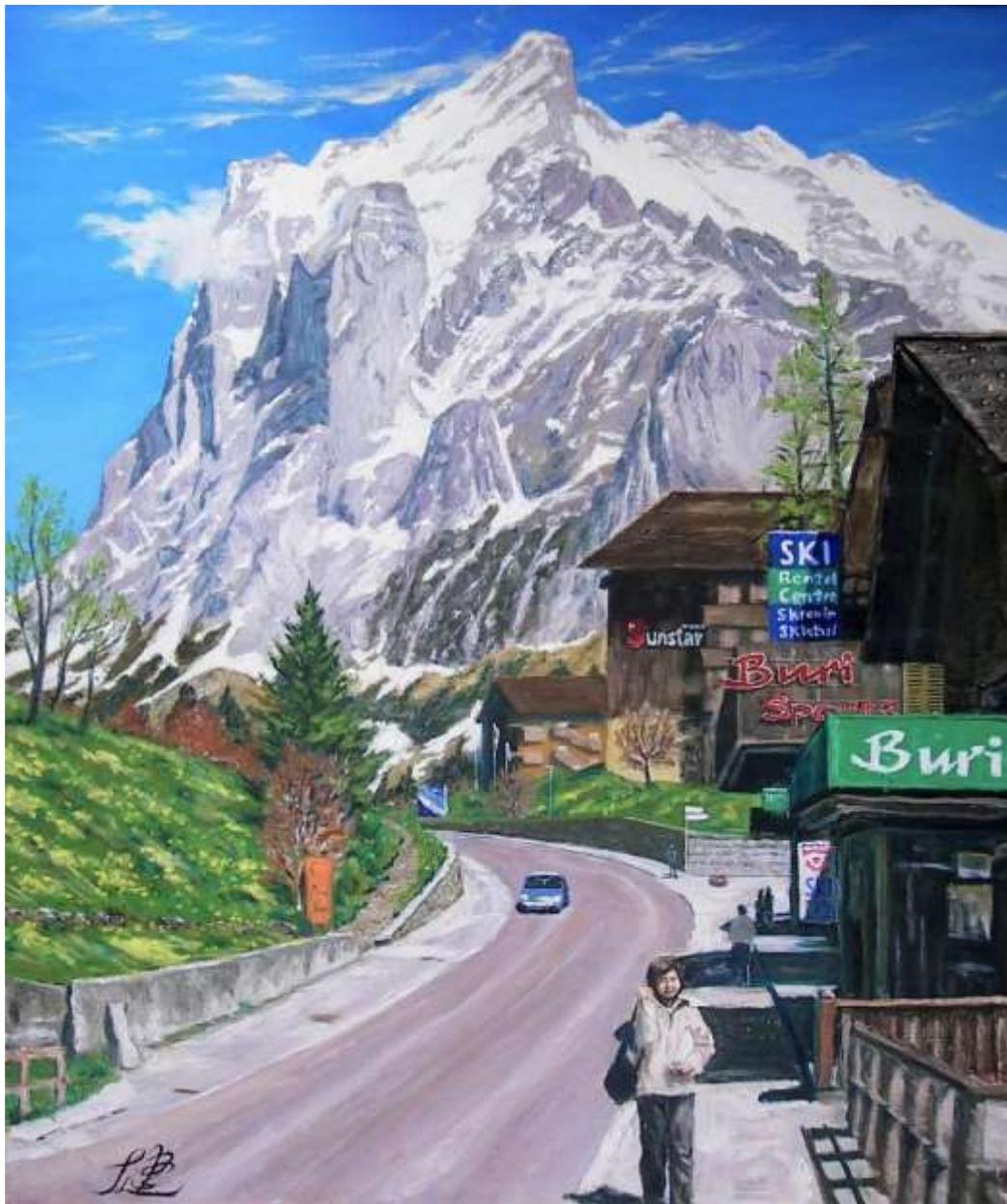


*Europe Alps*



pic. 22 グリンデルワルトにて  
F 20号 2009

グリンデルワルトの村から一番目立つ山は  
アイガーではなく、ヴェッターホルンであ  
る。街のある谷間から一気に突き上げる北壁  
の上に頭をもたげたように頂上が見える。

*Europe Alps*

pic.23 ゴルナーグラート駅  
からのマッターホルン  
F 20号 2006

ツェルマットから登山電車に乗ってゴルナーグラートまで登ってくるとあたりは雪原となった。子供の頃から幾度となく写真で見たマッターホルンの姿がそこにあった。まさに世界の名峰。



*Europe Alps*



pic. 24 ピツツパリュ

F 10号 2017

イタリアのテラーノから世界遺産レーテッシュ  
鉄道に乗ってスイスに入ると、最初に見える高  
山がピツツパリュ。南東面に広がるパリュ氷河  
の融水がいくつもの瀑布を懸け、エメラルドグ  
リーンのラゴ・デ・パリュに流れ込んでいる。

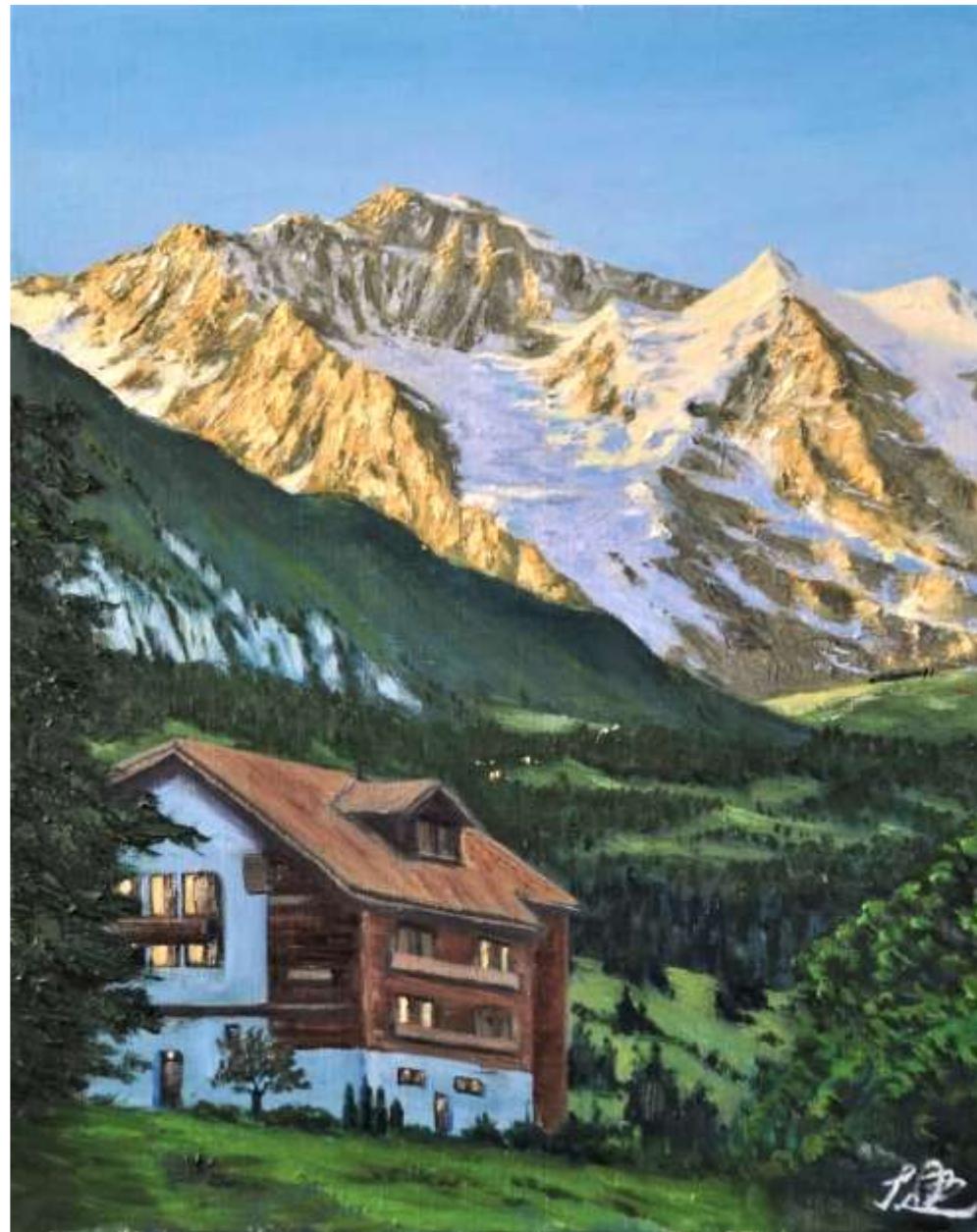
Europe Alps



pic. 25 残照のユングフラウ F 10号 2017

森の中の町ヴェンゲン。夕食後、ガイドに聞いた教会のある展望台に行くと、ユングフラウの大きな姿が見えた。すでに午後9時になろうとしているのに残照を浴びて輝いていた。

Europe Alps



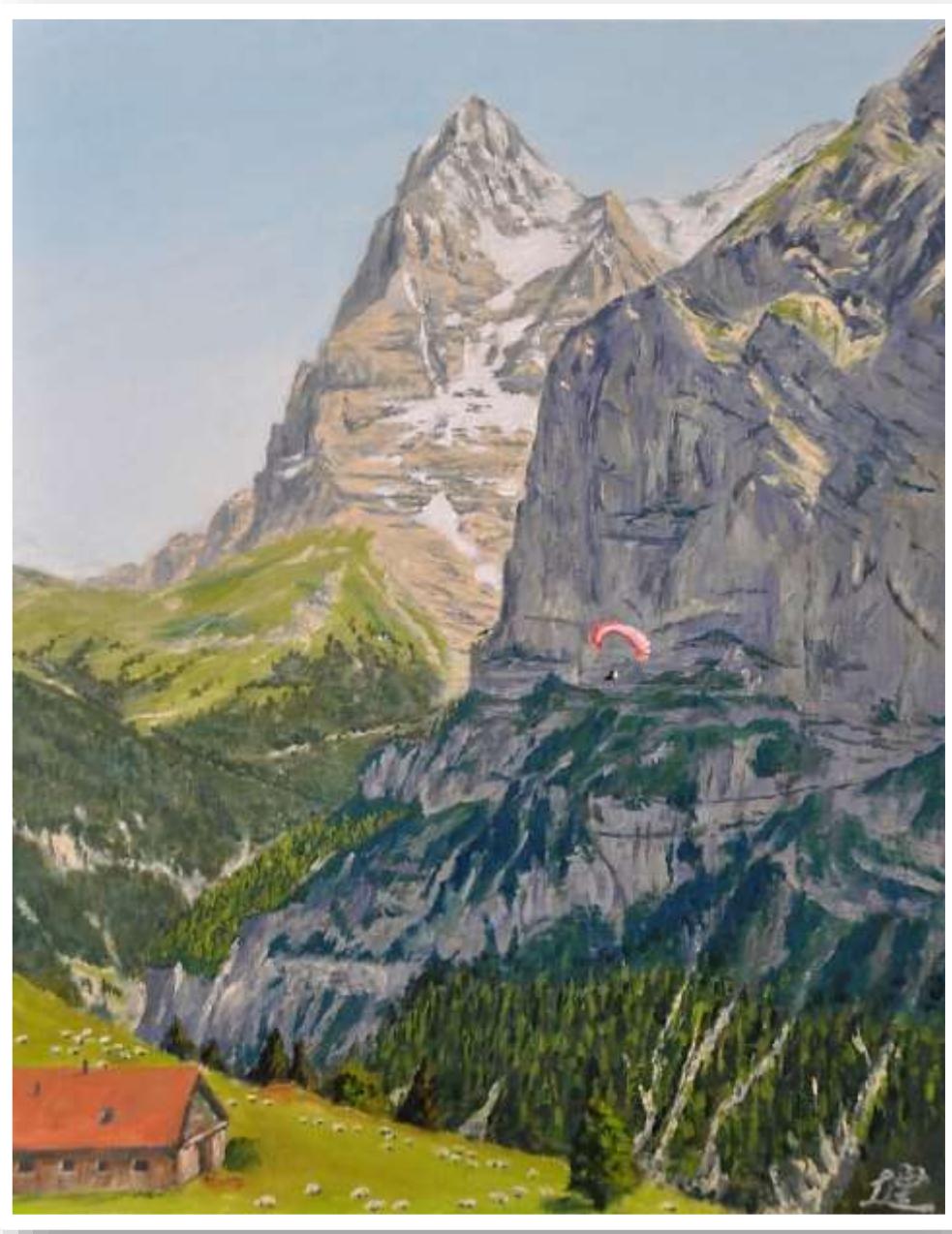
pic.26 ヴェンゲンの朝  
F 6号 2018

早朝、尾根の西側にあるヴェンゲンはまだ暗い。しかし、村の背後に見上げるユングフラウはすでに眩しくらいの陽を浴びていた。

*Europe Alps*

pic. 27 ミューレンから仰ぐアイガー  
F 6号 2018

ミューレンの牧場から氷河の浸食でできたU字谷を隔てて見るアイガーの雄姿。左側に垣間見える北壁とメンヒに続く優美な稜線の対比、こちら側ののどかな牧場と氷河が作った対岸の岩壁の対比、大自然とその中を気持ちよさそうに滑空するパラグライダーの対比など面白い景色である。



*Europe Alps*



pic. 28

メンリッヒエンからのアイガーとメンヒ

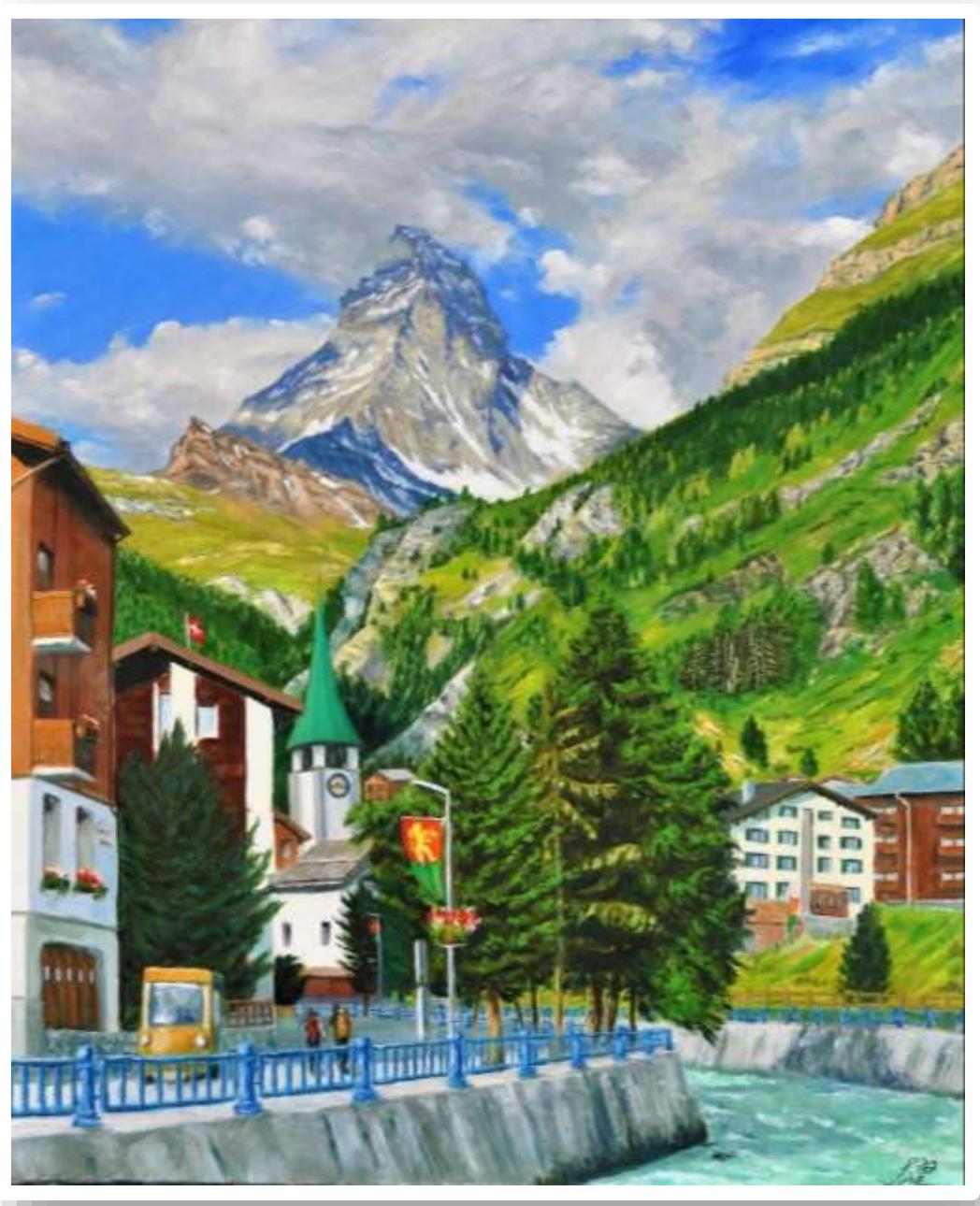
P 10号 2018

ヴェンゲンからロープウェーに乗ってメンリッヒエンへ。ここからクライネシャイデックへ下るハイキング道はアルプスを代表する草原とお花畠の道。正面にアイガーヴァント（北壁）が屹立している。

*Europe Alps*

pic.29 朝のツェルマット  
F 20号 2018

雲の多い朝だったが、ようやくマッターホルンの頂上にかかっていたガスが取れて全貌が見えだした。ツェルマットから見る姿は実に整った姿をしている。川べりのみちを電気自動車が走り出しハイカーが登山電車の駅へと向かう。観光の町が活気づいてきた。



Europe Alps



pic. 30 リッフェルゼーにて P 8号 2018

ゴルナーグラート登山鉄道のローテンボーデン駅で途中下車して少し歩くとリッフェルゼーにでる。マッターホルンが逆さに水面に映ることで有名な池であるが、あいにく犬が池で泳いでいて波が立って見ることができなかった。

*Europe Alps*

pic. 31 ミディからのグランドジョラス  
F 10号 2017

シャモニからロープウェーを乗り継ぎエギュ・ド・ミディの絶頂へ。バレ・ブランシュ側に出ると目に飛び込んでくるのがグランドジョラス。頂上から落ちるウォーカーバットレス（北壁）を西侧から見るので、その傾斜の強さがよくわかる。



Europe Alps



pic. 32 エルブロンネからのモンブラン・イタリア側 M 20号 2020

エルブロンネから見るモンブランのイタリア側は、比較的に茫洋とした氷河が続くフランス側と打って変わって荒々しい岩壁が一気に落ちている。その上に清浄な純白のドームが雪煙をたなびかせる。ヨーロッパアルプス最高所・モンブラン頂上である。